

琉球大学医学部附属病院がんセンター
平成31年度（2019）がん患者等支援事業

がん情報及び地域がん医療説明会 「もしも粟国村でがんになったら」 に関する報告書

2019年9月26日

地域の療養情報「おきなわ がんサポートハンドブック」の刊行に際し、本書の活用説明会を栗国村で実施した。栗国村におけるがん医療の在り方について、栗国村長・担当課長らと協議した。

また、講師をされる県立南部医療センター・こども医療センター附属 栗国診療所の医師とも同様の協議を行った。

その後、地域の住民を対象にがん情報提供の講演会および相談会を実施した。

■栗国村におけるがん医療の在り方についての協議

(栗国村役場)

日 時：令和元年9月26日（木）13：30～13：50

場 所：栗国村役場 村長室

出席者：栗国村 村長 新城 静喜 様
栗国村 副村長 伊佐 文宏 様
栗国村役場 民生課 主任 大畑 恵美 様
琉球大学医学部附属病院がんセンター センター長 増田 昌人
琉球大学医学部附属病院がんセンター 事務補佐員 東 啓子

(県立南部医療センター・こども医療センター附属 栗国診療所)

日 時：令和元年9月26日（木）15：00～16：50

場 所：栗国診療所

出席者：栗国診療所 所長 三宅 孝充 様
琉球大学医学部医学科6年次 宮本 春花 様 (研修中で同席)
琉球大学医学部附属病院がんセンター センター長 増田 昌人
琉球大学医学部附属病院がんセンター 事務補佐員 東 啓子

■がん情報及び地域がん医療説明会「もしも栗国村でがんになったら」

日 時：令和元年9月26日（木）18：30～20：00

場 所：栗国村離島振興総合センター

参加人数：26人

内 容：(1) 講演「がん情報のさがし方勉強会 in 栗国村」
琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人
(2) 講演「栗国村でできるがん医療」
県立南部医療センター・こども医療センター附属 栗国診療所 三宅 孝 様
(3) 質疑応答
※ 行政関係の方々も多くご参加頂け、最後には、新城 静喜村長よりお礼の言葉があった。

■個別相談

日 時：令和元年9月26日（金）講演会終了後

場 所：栗国村離島振興総合センター

相 談 者：なし



国民の2人に1人はがんになる時代です。

いざというとき、自分の納得いくかたちで病
気と向きあうために、がん治療の現状も交え
ながらお話しします。

もしもに備えて考えてみませんか？

どなたでも、お気軽にご参加ください。



療養場所ガイド7
本島周辺の離島編



がん専門医が伝える
病院・診療所の上手なかかり方



もしも栗国村で がんになったら

栗国村のみなさまへ
がん診療の疑問や不安を解消する説明会を
栗国村で開催します。地元の診療所でどんな
治療ができるのか、がん情報がしのコツを、
専門家の立場からお話しします。
がんはすべての人にとって身近な病気です。
情報は“力”となり療養生活を支えます。
まずは「知る」ことから始めませんか。

琉球大学医学部附属病院 がんセンター長
増田 昌人

—がんサポートハンドブック・
—がん療養場所ガイドブック
活用説明会in栗国村—



(講演) 県立南部医療センター・子ども医療センター附属

・栗国村でできるがん医療について 栗国診療所 三宅 孝充先生

・病院のかかり方、情報の集め方 琉球大学医学部附属病院がんセンター長 増田 昌人

日 時: **9月26日(木)午後6時30分～7時40分**(午後6時開場)

※終了後、希望者には医師による個別がん相談対応あり

場 所: **離島振興総合センター**

対 象: 栗国村にお住まいのみなさん 参加費: 無料

主 催: 琉球大学医学部附属病院がんセンター 沖縄県がん患者等支援事業

内容に関するお問い合わせ: 琉球大学医学部附属病院 がんセンター

☎ 098-895-1531

- 広報手段 : 栗国村役場の協力で村広報誌へチラシを挟み込み全世帯へ配布
- 役場及び診療所、村内掲示板へのポスター掲示
- 防災無線による島内放送
- 栗国診療所による外来者への周知

がん情報のさがし方勉強会 in 粟国村

「おきなわがんサポートハンドブック」
「がん患者さんのための療養場所ガイド」

琉球大学医学部附属病院がんセンター
増田 昌人

粟国村民に知って欲しいがんの話

粟国診療所 三宅

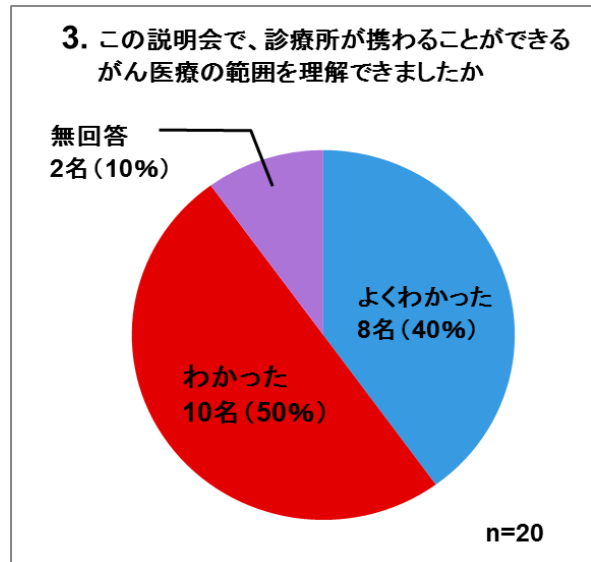
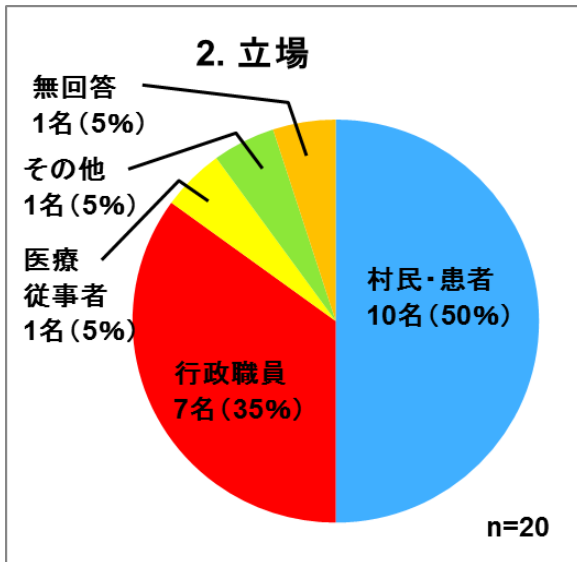
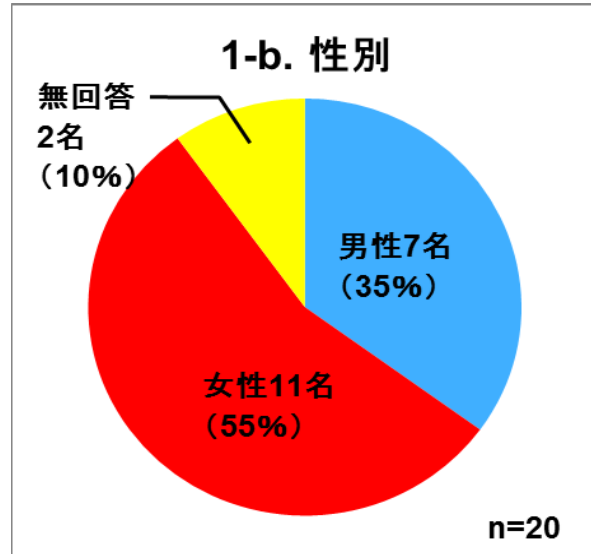
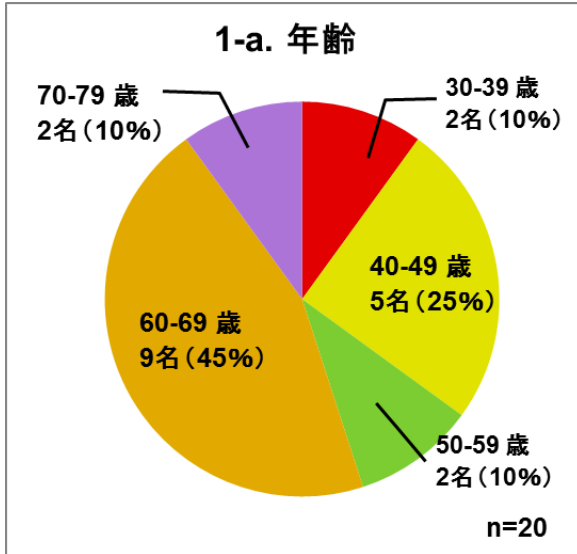
診療所でできること

- がんについての**情報提供**
- 治療中や治療後の**経過観察**
- 専門病院との**連携**
- 訪問診療、緩和ケア

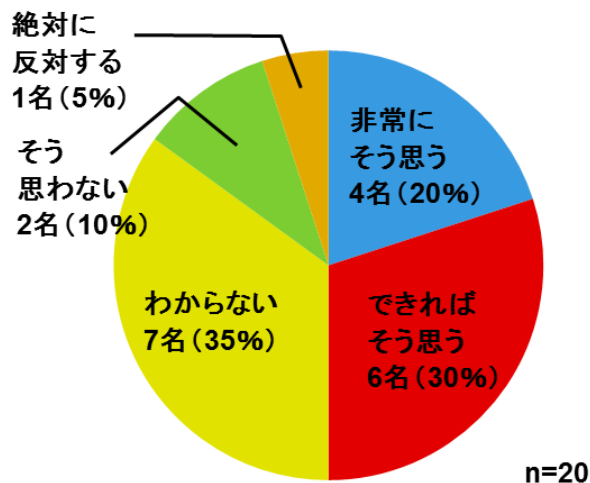




参加者26人 アンケート回収20人 アンケート回答率77%



4. もし身内が、がんなどを患い自宅で最期を希望されるとき、自宅で看取りたいですか



5. 4の理由を教えてください。

慣れ親しんだ場所で、親しい方々から見守ってあげたい。

本人の意思を大切にしたい。

その方が心安らかに終われると思うので。

病院の方が対応がはやいと思っています。身内が死んだ時、自分の気持ちがどうなるのか判らないから全く体や頭がはたらかないと考えています。

身内の希望であれば看取りたい。

症状をみないと何ともいえない(副作用や体調など)

離島なので自宅で看取る事は、後々の事もあるので病院でのほうが良いなと考える。

出来る限り自分の物に囲まれて、おだやかな状態で看とってあげたいと思います。

今まで考えたことがなかったので分からない。今後パートナーと話し合ってみます。

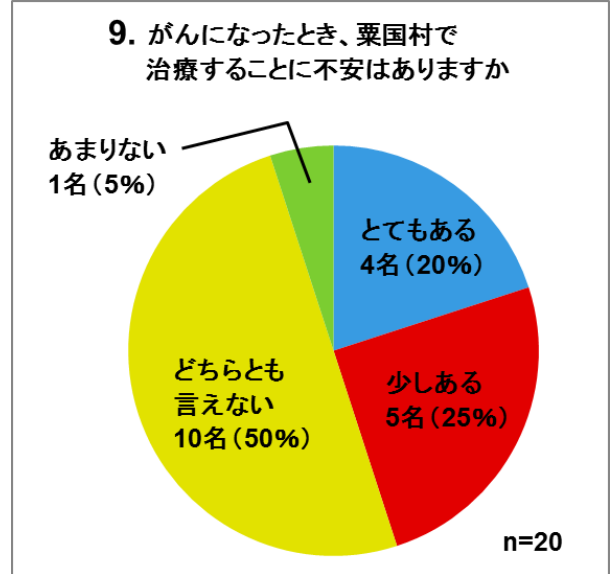
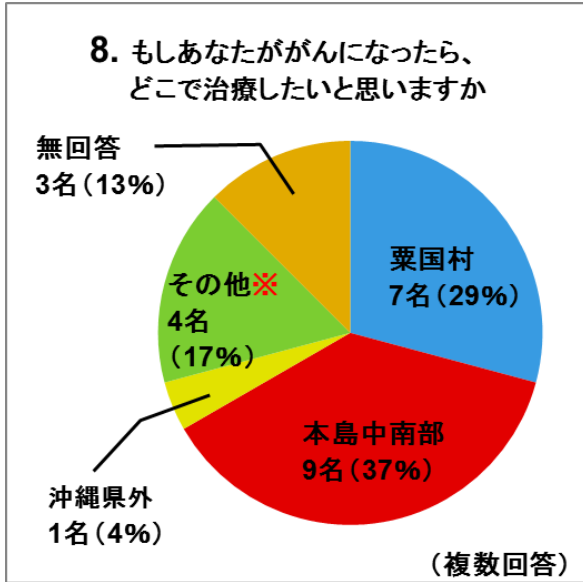
生まれ育って島から出たことがないので、知らない土地での死は年老いたら考えられないので、できるだけそうしたい。

医療にくわしくないので。

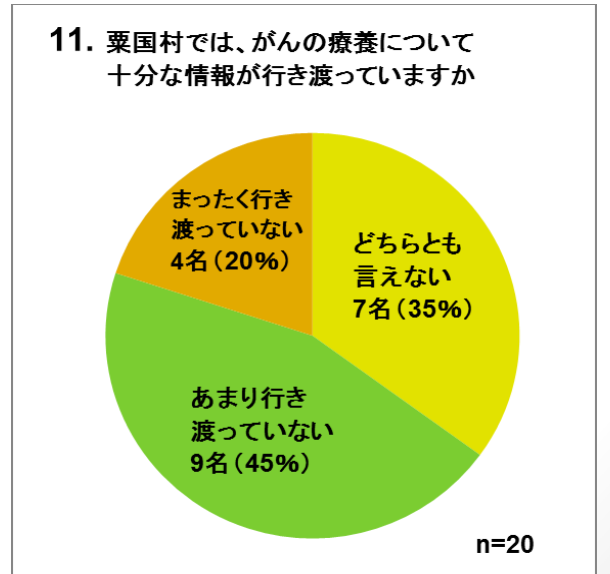
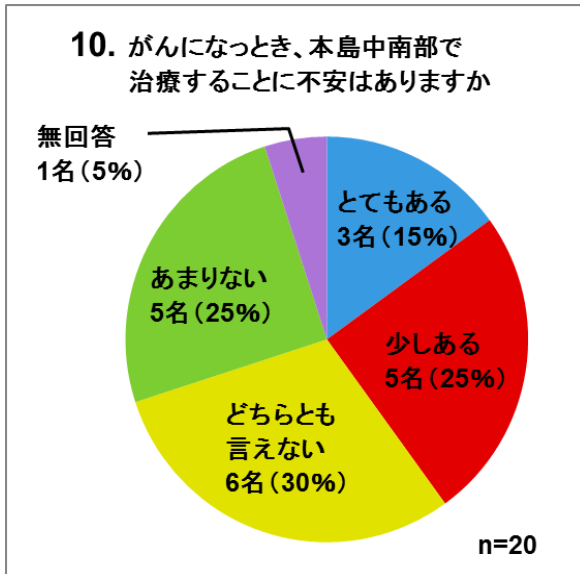
不安である。

自宅にせつびがなく、1人でみとるのが不安でたまらない。

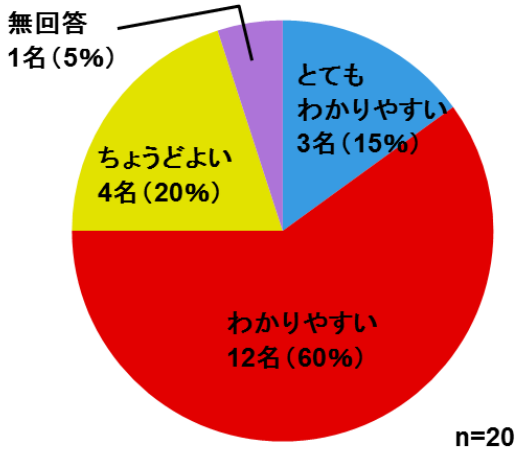
医療施設で療養したい。



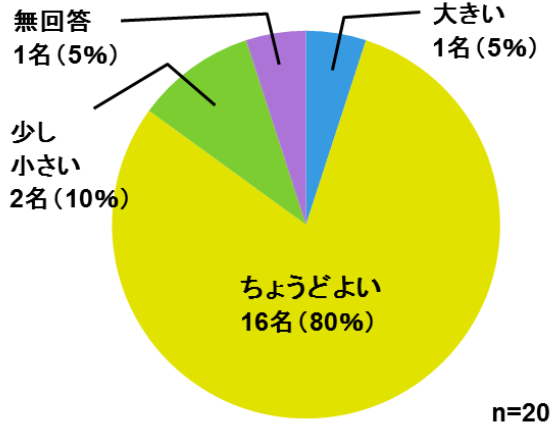
- ※その他
- 自分の出身地
 - 娘の住んでいるところの近く
 - 今の状況ではわからない
 - 別のところに持家があるのでそこも考えたい



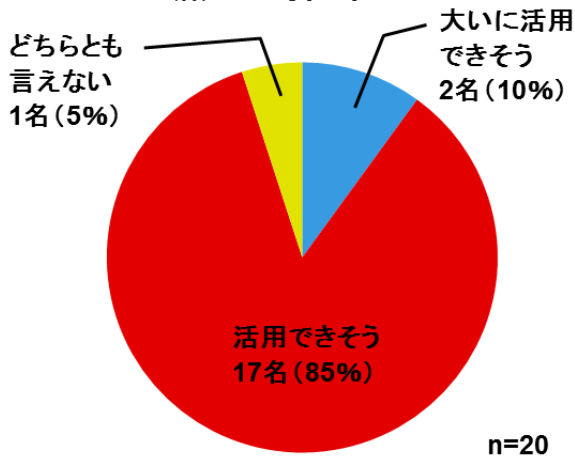
12. がんサポートハンドブックの内容についてどう思われますか



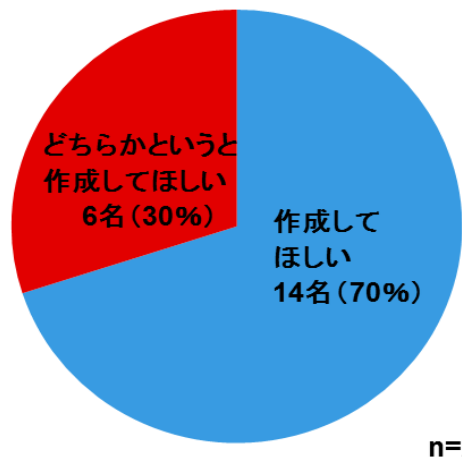
13. がんサポートハンドブックの文字の大きさ (フォントサイズ)についてどう思われますか



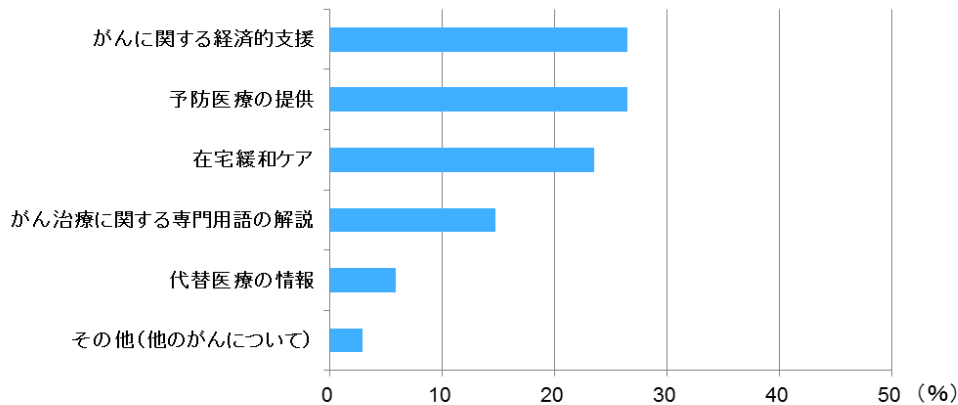
14. がんサポートハンドブックを活用できそうですか



15. この冊子を、今後も継続して作成してほしいと思いますか



16. がんサポートハンドブックに追加掲載を望む内容(複数回答可)



17. 説明会の感想や、病院への要望など何かあれば自由に記載してください。

若年者のがん検診受診率を上げる為の工夫を考えていきたい。100%を目指していきたい。

先生がとても誠実でよかったです。だけどずっと島に残してもらえたらもっと安心なのにと感じてしまいました。

今日はありがとうございます。がんだけではなく終活にむけての話しを家族で出してみようと思いました。

とても良かったです。理解しやすかった。ありがとうございました。

もっと時間が長くてよいと思う。あと30分くらい(今日の講演会)

これまですぐ本島の病院に行くことがあたりまえでしたが、今回の話を聞いて、いつもお世話になっている診療所の先生にみてもらうことがベストとの事なので安心して生活が送れそうです。きちょうなおはなしありがとうございました。

診療所への信頼がとても増しました。今後共よろしく願い致します。

ガンについて見つめ直すきっかけになりました。ガンは身近なものだと考えさせられました。今後、検診を受けようと思います。

大変良かった

延命治療について？

分かりやすい説明であった。

今日講演会で健康について改めて考えが深くなりました。とてもわかりやすくて良かったです。ありがとうございました。

■ 粟国村におけるがん医療の在り方についての協議

（粟国村役場）

粟国村 村長	新城 静喜 様
粟国村 副村長	伊佐 文宏 様
粟国村役場 民生課 主任 大畑 恵美 様	



（県立南部医療センター・子ども医療センター附属 粟国診療所）

三宅 孝充 先生

琉球大学医学部医学科6年次 宮本 春花 様（研修中で同席）



- がん情報及び地域がん医療説明会 もしも栗国村でがんになったら
講演：「がん情報のさがし方勉強会 in 栗国村」
琉球大学医学部附属病院がんセンター長 増田 昌人



- 講演：「栗国村でできるがん医療」
県立南部医療センター・こども医療センター附属 栗国診療所
三宅 孝充先生



質疑応答



会場
(栗国村離島振興
総合センター)



第1回 宮古医療圏がん医療を考える会 議事要旨

日 時：令和元年6月7日（金） 10時～12時10分

場 所：沖縄県立宮古病院 3階 講堂1・2

テーマ：宮古医療圏のがん医療をみんなで考えよう

内 容：患者会・病院・行政で意見交換をしてコミュニケーションを図ることで、お互いの情報を得てがん医療の不安を取り除き向上させよう。

出席者：離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 会長 真栄里 隆代
離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 記録 砂川 洋子
離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 会計 小路 千恵子
離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 会員 小田 美恵子
離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 会員 岸本 廣道
まんま宮古 会長 深澤 麗子
友声会 上里 弘

宮古島市議会議員 仲里 タカ子

宮古島市議会議員 島尻 誠

宮古島市役所 生活環境部 健康増進課 課長 仲宗根 美佐子

宮古島市役所 生活環境部 健康増進課 課長補佐 下地 徹

特別支援教育心理士 喜納 海里

宮古地区医師会 会長 竹井 太（代理） 国頭 ゆかり

沖縄県立宮古病院 院長 本永 英治

沖縄県立宮古病院 副院長 岸本 信三

沖縄県立宮古病院 副院長 中山 幸子

沖縄県立宮古病院 外科部長 松村 敏信

沖縄県立宮古病院 地域連携室 室長 慶田 博子

沖縄県立宮古病院 副看護部長 比屋根 三和子

沖縄県立宮古病院 看護師 朝川 恵利

沖縄県立宮古病院 がん相談支援センター 朝川 恵利

沖縄県立宮古病院 総務課 事務局 下里 直

琉球大学医学部附属病院がんセンター センター長 増田 昌人

琉球大学医学部附属病院がんセンター 事務補佐員 東 啓子

※県議会議員 亀濱 玲子様は、当日の参加はないが事前に協議事項の提出あり

会の様子：



1.開会の挨拶

琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人より、開会挨拶が行われた。

患者と医療者及び行政など様々な対場の人と一緒に会し、患者会等の意見に耳を傾け、よりよいがん医療状況に繋がることを目的として開催に至ったことを述べ、次に資料の確認が行なわれた。以降は司会増田より議事進行が行われた。

2. 報告事項

(1) 出席者の紹介

出席者各自より自己紹介があった。【資料1】

(2) 協議会での話し合いのまとめ

琉球大学医学部附属病院がんセンター長の増田より、H26年度よりH29年度に開催された宮古医療圏がん医療連携協議会の資料を基に、これまでの経緯について報告を行った。

【資料2・3】

(3) 「花を咲かせるプロジェクト」について

宮古病院の中山副院長より、ゆうかぎの会からの提案で病院の通りに花の苗を植える作業と一緒に実施した。病院側からは気付かなかった癒しになっていると報告があった。

患者会からは、宮古島市の緑推進課より無料で花の苗300本を頂き、病院と地域の方との楽しい交流の場となったとゆうかぎの会の小田様より感謝が述べられた。また、活動の様子を写した資料の配布もあった。

【当日資料4】

(4) 2018年15月、宮古病院の患者図書コーナーについて

宮古病院の中山副院長より、患者図書コーナーを設置したので待合いのときに利用して頂きたいとの報告があった。

ゆうかぎの会真栄里様よりは、情報の本と読む場所が欲しいと長年思っていたので、患者の声に耳を傾け、前向きに実現して頂いたことと本棚を本永院長が寄贈されたことへの感謝が述べられた。

琉球大学医学部附属病院がんセンター長の増田より、図書館のスタッフを国立がんセンターで研修をして、がんプロジェクトを実施している図書館が沖縄にも数か所ある。図書館と協力して情報提供することも良いと石垣図書館の実施例を挙げた。

(5) 宮古病院におけるがん専門相談員の活動について

宮古病院の中山副院長よりの指名で、がん専門相談員の朝川看護師から説明があった。

平成29年5月よりスタートしているが、年々増え昨年度は128件であった。対面もあるが、県外から帰ってきたいけれどどういことが出来るのかという相談などがあると報告があった。

ゆんたく会の実施については運営方法や実施時間など患者会の方を含め多くの意見が出された。ゆうかぎの会の岸本様より時間や曜日が合えば参加可能である。喜納様よりは以前に連携室等に協力してもらい土日に実施したこともあったが、人の集まりは増えなかった。会の出

席が長い方は宮古の医療について話しをするが、新規の人は自分のことを話したいので寄り添える感がなかった。集まるときに勉強会などもするとリテラシーや患者力も高まるのでよいのではと意見があった。

琉球大学医学部附属病院がんセンター長の増田より琉大病院での事例として、男性が多く7割程度おり、おっさんの会のようになっているが男性が集まる場所が少ないのでなかなか貴重である。内容的には、はじめの30分をミニレクチャー（薬剤師・栄養士さんに話してもらいや資生堂の化粧方法）をすると集まりやすい。

後日、患者会からも出席お願いしてよく集まるメンバー等と調整を進めていく方向となった。

(6) 宮古病院におけるがん専門看護師の活動について

宮古病院の中山副院長より、がん専門看護師はいるが専従にできない理由の説明があり、現在、受験で受ければがん専門看護師を取れる人材を調整中なので、今後は配置も改善される予定であると報告があった。

(7) 宮古島市における「離島患者等支援事業」について

宮古市役所生活環境部健康増進課の下地様より利用者数および助成額などの報告があった。地元での診療が出来ない治療について渡航費等を助成しているが、制度も柔軟に対応しており周知も進み前年度より利用者数も平成29年168人（述べ人数）に対し平成30年度は245人に増加した。助成額もH29の約200万円からH30は約300万円となった。

改善事項としては以下の事項があり、ゆうかぎの会小路様と岸本様からは相談対応にお礼が述べられた。

- ①H30年度9月より宿泊支援制度を始めた。
- ②付き添い人の条件が緩和された。
- ③飛行機だけでなく、病状の都合による船の利用も認めた。

H29、H30の詳細についての資料は後日健康増進課より提出する報告もあった。《別紙1》

(8) その他

特になし

3. 協議事項

(1) 宮古病院における外来受診の案内について

・まんま宮古 会長 深澤 玲子

〈要望の内容〉

外来受診の際、はじめて受診する方、予約ありの再診の方、予約をしていない再診の方など、それぞれの受付から診療・帰宅までの流れをわかりやすく表示してほしい。案内係員らしき人が総合案内所の前に立っているが案内が聞きにくく、役割をもっとわかりやすくしてほしい。受診する際の案内が総合受付で果たしているのか。

実際に受付するときに、図式にしたものを見せられると安心感がある。

〈要望に至った状況〉

- ・初診の方が案内図をみて直接診療科に行ったが、総合案内に戻ったりしていた。
- ・総合受付で受付後診療科受付前で待っていたが、混んでいて受付方法に間違いはなかったのかと不安になった。聞きに戻るのも呼ばれるかと不安である。
- ・総合案内所内に駐車場処理係が座っているので案内所なのかわかりにくい。

〈実施により期待される効果〉

- ・受診の手順を知ること、安心感を得られ気持ちの余裕もでき付き添いも減らせて待合室の混雑をさげられる。口頭だけだと、聞き間違いもあるので表示されてあると確認できる。

〈状況〉

要望を受け宮古病院の慶田地域連携室長からは、初診の場合は地域連携室を通して予約するのが基本であり、予約外で受診する患者さんがいることが待ち時間を長くしてしまうことになっている。個人の電話予約は受付していないので、再診であっても地域連携室を通すか、かかりつけの医療機関を通しての予約をしてほしい。

また、平日朝 8 時より案内はおり、9:30~11:00 頃までは車イスの方も案内できるように対応している。

〈協議結果〉

- ・図式の案内図については検討してみる。

(2) 宮古病院における免疫チェックポイント阻害薬等の高額治療の適応について

- ・県議会議員 亀濱玲子

〈要望に至った状況〉

離島では高額な薬が予算の都合で購入出来ない現状があると聞いたが、どういう理由か。

〈実施により期待される効果〉

出来ない医療を減らして、離島の格差を減らしたい。

〈状況〉

宮古病院の本永院長より説明があった。免疫チェックポイント阻害薬では、オブジーボやキイトルーダなどの高価な治療薬があるが、現在薬価は下がってきており、10 月にはさらに下がる予定である。高額な治療薬もあるが、がんや化学療法の予算の計上もしており予算上の問題はない。また、月 1~2 回ではあるが、専門外来（肺がん、放射線治療、乳がんなど）の先生方を通してどの薬が合うかの相談外来を実施している。他の稀な病気についても、専門外来で来島して頂き地域の中核病院としての役割を果たそうと多方面の医師にご協力頂き担っている。

ゆうかぎの会長真栄里様より、患者さんは素人なので予算の問題で患者が薬を使用出来ないということと言わなかったり不利なことがないようにお願いしたいと発言があった。

<協議結果>

琉球大学医学部附属病院がんセンター長の増田より、以前は予算の問題で高額な薬の購入に問題があったが、現在は予備の費用もあり対応も可能となっている。新規のまれな高価な治療については琉大にきてもらおうとよい。宮古病院で実施している専門外来はせっかく努力していることなので、HPにもわかりやすく載せたほうがよい。また、外来受付にも紙一枚でもよいので、一覧表を貼っておくと安心したりこんなこともやっていると分かりやすいと補足説明があった。

(3) 宮古病院における血液疾患の治療について

・ゆうかぎの会 真栄里 隆代

<要望内容>

血液がんの治療は宮古病院でどこまでできるようになったか教えてほしい。

<要望に至った経過>

化学療法の問題は、患者さんにとっては命に係わる問題です。

がんの患者さんが安心して島で暮らせるためには、治療がどこまでできるかは重要です。

血液がんの化学療法はどこまでできるようになって、これからの課題は何か。

化学療法が病院の諸事情で出来ないのは本当なのか、できるようにするためにはどうしたらいいか。患者さんが希望をもって島で暮らせるようにみんなで考え出来ることを協力したい。

<状況>

本永院長より現状の説明が行われ、平成31年1月より3月の延べ受診者数は421件であり、南部医療センターからの月2回の外来に加え、中部病院からも月1回朝倉医師が来て頂けるようになり、専門外来が月2回から月3回に増えたと報告があった。化学療法は強い薬を使用すると輸血対策なども予測のもとで治療を行うが、血液のがんは難しく専門性が高く責任も重い。それで、連携して内科を指導してもらうために朝倉先生に来てもらっている。そのような専門性の高い医師は少なく、現在、化学療法を勉強して専門医を目指している医師もいると説明。

患者会より、患者は自分の命が係っていてせっぱつまっている。自分の責任で化学療法の治療をしてもよいと誓約書を書いてもいいぐらいである。なので、責任を取れないから宮古病院でしないようになってほしくないと意見があった。

それに対し本村院長より、そんな風に患者さんからの意見があると思わなかった。しかしながら、倫理的に医師にも責任が重たいことであるので、きちんと勉強や経験をして認定を受けて対応していきたいと発言があった。

<協議結果>

増田がんセンター長より、医療の優先順位として、救急医療、小児科医療、周産期医療、精神科医療であり、そういったことが最低限の医療である。がんの治療はそれらより専門性がありすべてをカバーするのは難しい最先端の治療である。血液のがんは治療の方法が特殊で、血小板の輸血が必要なため初期治療については集約化している。希少がんや脳腫瘍などは年間数人なので、琉大に来てもらうようにして、よく聞くがんは地元で診てもらえるようにしているとまとめがあった。

(4) 宮古病院の国のがん診療病院指定取り消しについて

・ゆうかぎの会 砂川 洋子

<要望内容>

宮古病院が国のがん診療病院指定を取り消されたと聞いているが大丈夫か。

<要望に至った経過>

新聞報道で国のがん診療病院指定を外されたとありました。

予算が減ったりしたら、患者には影響はないでしょうか。

なぜ、指定要件がみたされなかったのでしょうか。

指定要件を満たすような取り組みはされているのでしょうか。

<状況>

中山副院長より指定要件を4件満たせなかったこととその内容の説明があった。4件とも移動や退職など人員の問題で専任や専従で配置できなかったことが原因である。沖縄県では資格を満たす人は少なく、もともと宮古は看護師不足もあり育休などで緩和ケアの看護師を補えなく、またがんについての相談はだれでもできるわけではなく、現在は確定ではないが配置できるよう調整しているところである。緩和ケア外来も6月からスタートしており、お知らせは不十分だが今後周知していく。北部病院以外を務めてきたが、宮古はいろいろな診療科に応援をもらえるように院長も調整しているので今後充実していきたくと報告があった。

宮古島市議会の仲里市議より、原因である県立病院の移動などで資格を満たす人がいなくなるなら考慮して余裕をもって育てないといけないと意見に対し、研修に出すと病院がまわらないと宮古病院から状況が報告された。増田琉大病院がんセンター長より、予備の人を育てる余裕がないのでその人に依存している現状であると説明が補足された。

<協議結果>

病院としての資格がなくなっただけで内容は変わっていない。指定要件を外れた原因は要件の資格者が少なく、また、人員不足により研修に出すにも出せない状況もあった。次年度の認定に向け現在見通しを立てつつある。しかしながら、将来的には、沖縄県全体で育てる必要があること。研修に行かせる費用とその穴を誰が埋めるのかも問題である。本来、医療は市長村が担うものだが、沖縄県は特殊である。市として市民を守るために研修要因の補充をすることなど柔軟な対応も望ましいとの意見もあり今後課題は残った。

(5) 宮古医療圏における在宅医療について

- ・ 県議会議員 亀濱玲子

〈要望内容〉

宮古では家庭医療に力を入れている。在宅医療の現状を教えてください。

〈状況〉

本永院長より説明があった。宮古では訪問介護をしている診療所があり、宮古病院は重度の患者を診ていこうということですみ分けをしている。鈴木先生と総合診療科の先生を中心にがん患者の看取りのサポートをしていきたい。また、在宅支援診療の集まりがあってもっと連携をしていけばよくなると思うが、看護師が少ないのでそこを充実して解決できればと述べた。

琉大病院増田センター長より、沖縄は2040年がピークと予想されるので、市役所には在宅に係わる方の養成を検討して頂きたいと意見があった。

宮古島市議会の仲里市議より、訪問看護ステーションから訪問入浴車両が老朽化でなくなって困っているが、在宅で呼吸器をつけている人を介護ステーションに連れて行って入れるのも大変である。今後は購入せずに最期はお風呂に入れられないのか質問があった。

それに対して本永院長より、訪問入浴車両は介護保険の予算では出来ないサービスを社会福祉協議会が善意でしていたようである。なので、汲み取り式の浴槽を車両の載せるなどの工夫での対応かもしれないと述べた。

(6) その他

- ・ 増田センター長より、ヘルプマークについて、宮古島市で普及啓発活動に尽力してほしいと述べられた。

4. 閉会の挨拶

沖縄県立宮古病院の本永院長より、閉会の挨拶があった。

宮古病院が国のがん診療病院指定を取り消しになって不安だと思うが、宮古地区の中核病院と思っているので、みんなと一緒にこの地域の医療をサポートしていくつもりである。がんだけでなくいろいろな声をきいて住民と一緒に、よりよい医療を作りあげていこうと思っているとの挨拶がなされた。

2. 報告事項 (7) 宮古島市における「離島患者等支援事業」について
宮古市役所生活環境部健康増進課より詳細提出資料

平成30年度

	延べ人数(実人数)	宿泊 延べ人数(実人数)	助成額			
悪性新生物	223(127)	30(24)	3,053,102	悪性本人	96人×2回	31人×1回
付添	22(15)	3(3)	290,000	付添	7人×2回	8人×1回
計	245(142)	33(27)	3,343,102		103人×2回	39人×1回

平成29年度

	延べ人数(実人数)	宿泊 延べ人数(実人数)	助成額			
悪性新生物	163(92)	0	2,060,050	悪性本人	71人×2回	21人×1回
付添	5(3)	0	45,500	付添	2人×2回	1人×1回
計	168(95)	0	2,105,550		73人×2回	22人×1回

第1回 八重山医療圏がん医療を考える会 議事要旨

日 時：令和元年7月11日（木） 15時～17時30分

場 所：沖縄県立八重山病院 2階 講堂2・3

テーマ：八重山医療圏のがん医療をみんなで考えよう

内 容：患者会・病院・行政で意見交換をしてコミュニケーションを図ることで、お互いの情報を得てがん医療の不安を取り除き向上させよう。

出席者：八重山のがん患者を支援する・やいまゆんたく会 副会長 田盛 亜紀子
八重山のがん患者を支援する・やいまゆんたく会 事務局 宮國 惠慈
八重山のがん患者を支援する・やいまゆんたく会 事務局 伊良皆 香代

石垣市議会副議長 石垣 亨

石垣市議会経済民生委員長 箕底 用一

石垣市議会総務財政委員長 砥板 芳行

石垣市議会経済民生委員長 我喜屋 隆次

石垣市議会議員 石垣 達也

石垣市議会議員 東内原 とも子

石垣市議会議員 長山 家康

石垣市議会議員 大濱 明彦

石垣市議会議員 内原 英聡

石垣市議会議員 新垣 重雄

石垣市議会議員 宮良 操

石垣市議会議員 井上 美智子

石垣市議会議員 長浜 信夫

八重山保健所 健康推進班 班長 横目 信子

石垣市役所 健康福祉センター所 長 佐藤 隆

竹富町健康づくり課 課長 上野 エミ

八重山地区医師会 会長 上原 秀政

沖縄県立八重山病院 院長 篠崎 裕子

沖縄県立八重山病院 副院長 松茂良 力

沖縄県立八重山病院 副院長 平良 美江

沖縄県立八重山病院 化学療法認定看護師 大益 渉子

沖縄県立八重山病院 地域連携センター がん相談員 金城美奈子

沖縄県立八重山病院 地域連携センター 緩和ケア認定看護師 大上 永利子

沖縄県立八重山病院 地域連携センター 看護師長 玉里 桂子

沖縄県立八重山病院 医事課（総括） 本村 太志

沖縄県立八重山病院 医事課 課長 内間 真子

琉球大学医学部附属病院がんセンター センター長 増田 昌人
琉球大学医学部附属病院がんセンター 事務補佐員 東 啓子

当日の様子：



<開会のご挨拶>

- ・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人
議事次第、資料集を確認の後、以降は増田より議事進行が行なわれた。

<報告事項>

1. 参加者紹介

- ・参加者全員に各々より自己紹介が行われた。【資料1】

2～14では、今回、多数の石垣市議会議員の参加希望もあり、患者会・病院・行政の様々な法的環境や現状を理解して頂きたく、がんに対する法律や指針等の資料を基に説明を行なった。また、がん医療の現状やこれまでに八重山医療圏での話し合いの経過をまとめて報告があった。

- ・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人

- 2. (改正) がん対策基本法 【資料2】
- 3. がん登録推進法 【資料3】
- 4. がん対策推進基本計画（第3期） 【資料4】
- 5. がん診療連携拠点病院等について 【資料5】
- 6. 小児がん拠点病院等について 【資料6】
- 7. がんゲノム医療中核拠点病院等について 【資料7】
- 8. 沖縄県がん対策推進条例 【資料8】
- 9. 第3次沖縄県がん対策推進計画 【資料9】
- 10. がん医療について 【資料10】
- 11. 八重山医療圏におけるがん医療の現状について 【資料11】
- 12. 「がんになったら手にとるガイド」 【資料12】
- 13. 地域の療養情報「おきなわがんサポートハンドブック」 【別紙資料1】
- 14. 沖縄県「がん患者さんのための療養場所ガイド」 【別紙資料2】
- 15. これまでの協議会での話し合いのまとめ 【資料13】

第1回～第7回までの八重山医療圏がん医療連携協議会 議事要旨

以上の点において石垣市議会議員より、いくつかの意見と質問があった。

○増田センター長の説明を受け、石垣市議会議員より発言があった。一次医療は市町村が担うものだという認識は欠如していたかもしれない。視察で訪れた他の都道府県では市町村が行っていた。石垣市でこれから八重山病院と協力して出来ることを学び、考えていきたいと述べた。

○PET 検査が保険摘要になれば、早期発見のために住民検診で行う方向性はどうか。

<石垣市議より質問>

それに対して、篠崎八重山病院長よりは、PET に関しては病期が見つければ保険適用になるが、予防的に受けるのであれば自費診療が現状である。沖縄県に PET の台数

がそんなになく、国の診療点数もないと発言があり、説明は琉大増田センター長へ引き継がれた。

増田センター長からは、PETは住民検診などで実施してもあまり意味のない検査の一つであると発言があった。見つかったがんの広がりを見るには高度な機械であるが、小さながんの早期発見には向いていないので、住民検診で導入しても財政の圧迫になるだけだろうと意見を述べた。

○小児がんについてはどこで早期発見できるのか <石垣市議より質問>

専門である八重山病院の松茂力副院長が返答した。小児がんは上皮性ではなく肉腫である。一番多いのが、白血病である。ほとんどは、熱発やしこりなどで病院に来た時に採血で分かることが多く、早期発見されてはいる。薬を使用すれば、治る可能性が高くなっている。琉大や南部医療センターともうまく連携できる現状であると報告があった。

16. 「やいまゆんたく会」の活動紹介

【資料14】

・やいまゆんたく会 副会長 田盛 亜紀子

やいまゆんたく会の活動目的や組織について説明があり、今年度の活動目標や活動内容が報告された。

17. その他

時間の関係で省略

<協議事項>

1. 八重山病院における常勤の泌尿器科医師の確保について

【資料15】

<提案：やいまゆんたく会 副会長 田盛 亜紀子／

八重山病院 地域連携センター 金城美奈子・下里桂子>

篠崎院長より以下の現状説明があった。

泌尿器科の専門医は2年前に定年退職し常勤が不在となっており、週3回の外来をお願いしてきてもらっている。本人も体調不安の為、手術は行わず外来のみである。沖縄県の現状で、南部医療センターでも泌尿器科医がもう7~8年不在であり、北部病院でも今年より琉大からは派遣されていた医師が開業で退職したため不在である。患者さんには、ご迷惑をかけて申し訳ないと思うが、県立病院全体で配置出来ない状況である。枠はあるが、医師がいない。宮古病院は、南部医療センターから宮古出身の方が戻り常勤でいて、その医師が南部医療センターに定期的に通っている。琉大も本島中南部の民間病院からのヘッドハンティングで、中堅の医師を取られてしまい派遣できる人材が不足している。

・八重山病院がICUからHCUになったと聞いたが大丈夫かと市議より質問。

それに対し、篠崎院長より、医師の過重労働改善のために条件的にHCUにしたが、内容

的は変わっていないと返答があった。

追加で八重山病院の松茂良副院長より、八重山病院の医師の1ヶ月の超過勤務は少なくとも100時間で多い方は140時間働いているので、医師の心も体も壊れていくことを守るために今回の決断に至っていると補足説明があった。

・この機会に全て県におんぶに抱っこではなく、県立病院と市町村で出来る役割を話し合っ
て行きたいと石垣市議会議員より発言があった。

篠崎院長よりは感謝の意が示され、これまで、こういった話し合いの場がなかった。

八重山医療圏は、竹富町・石垣市・与那国町だと思ってカバーしていきたい旨、現在、竹富町とも診療所の問題で歩み寄りをして話し合っているところなので、是非石垣市とも今後協力していきたいと発言があった。

・石垣市議会議員より、医師不足を解消するにはどうしたらよいか質問があった。

増田センター長より、働き方や場所の自由はあり、今の時代の医師の働き方改革を考えると県立病院の医師の定数を2倍にしないと一般市民レベルでの改善は出来ないと説明があり制度上の無理もあると説明があった。また、離島に中堅の医師を呼ぶにはその子弟が国立の医学部に行けるだけの進学校がないと不利があるとも説明があった。

2. 石垣市難病患者等渡航費助成事業について

【資料16】

<提案：やいまゆんたく会 副会長 田盛 亜紀子>

増田センター長と松茂良副院長より、島外で受診した患者さんの意見書は見ていない患者さんの意見書は書けないこととかかりつけ医を持つことが大事な事だと返答された。地元でカルテがないとその後の対応にも困るので医療的にも難しいと説明がなされた。

やいまゆんたく会の田盛様よりは、患者からすると地元で完了することは行かなくていいと言われても、今の八重山病院では不安がある。ひとつしかない命なので、手術してもらった病院でみてもらいたいという思いが強いと意見があった。

増田センター長からは、すべてが八重山病院で完結するわけではないが、八重山病院を介することで、その後戻ってきて何か急なことがあったときに八重山病院での対応がスムーズに行える。自分の都合で、島外に行くことは否定しないが、島外でしか治療できない人にはきっちり旅費を出してあげたいと個人的には考えるが、最終的には行政の問題である。個人的な事情で地元の病院を素通りすると、定数が減っていくことになる。地元の病院を育てるためにも、ワンクッションおいて行ってほしいと意見を述べた。

石垣市福祉センターの佐藤所長からは、今年度の石垣市難病患者等渡航費助成の利用実績の報告があった。計40件のうちがん患者は25人ということであった。

3. セカンドオピニオンを取る際の渡航費・宿泊費助成について

【資料17】

<提案：やいまゆんたく会 副会長 伊良皆 香代>

増田センター長からは、財源の問題はあるがしっかり助成してほしい事項である。医療者としては、100%取ってほしいことであるので、まずは行政でしっかり検討してほしいと意見が

あった。

4. その他

- ・石垣市議会議員より、はじめに説明して頂いたので少し問題の方向性がみえてきたことと、助成の仕方や地域連携も含めて開催があれば参加できればと発言があった。
- ・増田センター長より、市町村どこも少ない予算をどのように分配したらよいか、医療を確保しないと人口は減っていつてしまうなどの問題があり、これからは、医療と育児を確保することは大事だと意見があった。

<閉会のご挨拶>

・県立八重山病院 院長 篠崎 裕子

今回、市議の方も参加し八重山のがん医療についても発展がみえてきた気がする。今後は病院や患者さんも一緒になって参加頂き少しでも良くしていきたいと述べられた。

すべての議事を終え、閉会となった。

がん情報提供資料 2020 年版 編集作業委員会 議事要旨

日 時：令和元年 9 月 11 日 14 時～16 時

場 所：琉球大学医学部附属病院 外来棟 3 階 がんセンター

編集員：13 名、（敬称略）

患者の立場	田盛 亜紀子(患者会・やいまゆんたく会副会長) ※郵送・お電話にて対応
患者の立場	真栄里 隆代(患者会・ゆうかぎの会会長) ※郵送・お電話にて対応
患者の立場	大湾 盛治
がんピアサポーター・地域統括相談員	中山 富美
がんピアサポーター・地域統括相談員	仲田 ひろ子
がんピアサポーター・地域統括相談員	橋本 佳奈
社会保険労務士	金城 由紀子(人財マネジメントオフィス・PDCA)
社会保険労務士	中島 隆史(オフコース障害年金プラザ)
チャイルド・ライフ・スペシャリスト	佐久川 夏実 ※事前面会にて対応 (沖縄県立南部医療センター・こども医療センター)
訪問看護認定看護師・所長	宮城 愛子(訪問看護ステーションはえばる)
医療ソーシャルワーカー	山田 綾美(琉大病院 がん相談支援センター) ※事前面会にて対応
血液・腫瘍内科医師	増田昌人(琉大病院 がんセンター センター長)
事務	東 啓子(琉大病院 がんセンター)

当日の様子：



1. 増田センター長あいさつ

2. WGメンバー紹介

議事に先立ち各人から自己紹介があった。

3. これまでの経緯について

がんと診断された患者さんが、適切な時期に、適切な行動がとれるよう、地域の療養情報として刊行している。内容も年々充実しており、完成度は高い。情報量の増加と共にページ数も多くなっており、減らして見やすくすることも検討である。手にとるガイドと併用予定で作成されたが、購入に至らない場合が多く、その為、追記情報が増えている現状である。

4. 2020年度版への検討事項

今年度は、事前に2019年度版への感想と変更等の意見募集アンケートを編集委員の方へお願いし、課題に対して審議していく形で会議の進行を進めた。また、電子書籍化も進めることから、昨年度より編集期間が短く、新規情報の確認と更新を主な変更予定とした。

5. 2020年版の改定内容（案）について

・全体的なこと

2019年度の完成度は高く見易さや構成も向上している。それを基にさらなる見直し点について意見が出され、文言や言い回しの修正や一部写真の変更、新規情報の追加とそれに伴う削減内容を検討した。

・主な変更点のまとめ

○がんゲノム医療について、今後対象者も増えていくことから図表等も用いて説明を追加記載する。その代わりに臨床試験は削除。また、免疫療法についても一般の方には民間療法と混同する方もいるので、免疫チェックポイント阻害薬と項目名を変更するかスペースに余裕がなければ削除する。

○あまり活動していない患者会や連絡の取りにくい患者会の記載をやめる。電話が繋がらないことに対するマイナス効果がある。記載希望の場合は、こういった患者会があるという会の名称だけに留める。

○AYA・世代や小児がんについての情報が少ないので確認・追記予定へ。

○電子書籍化における希望

- ・パソコンだけでなくスマホでの使用勝手を考慮してほしい。
- ・電話やサイトにリンクしたり、ワード探索できると便利である。

■項目やページ順に議事事項の詳細を以下に記す

巻頭綴じ込み 今の折り方で見やすくなった

○とじこみ 診断から治療までの流れ

「5.セカンドオピニオン」→「5.セカンドオピニオン の活用」がよいのでは？
⇒ 「5.セカンドオピニオン の活用」へ変更

もくじ・写真

○P1 とじ込みのはじめにも文章があるので、くどく感じる。

⇒ 昨年度に巻頭や見開き写真ページの文言修正を行っており、本の概要と沖縄の願い
ということのでだぶり感はない。変更なし

○写真の変更 ⇒ **編集者と検討事項**

表紙・・・毎年変更したい

P1・・・見づらく何かわからない点が不安であり、取り直しが 難しければ2018年版の再
使用も検討

P2.3.4 **もくじの小さい写真**・・・アダムは腫瘍を連想、島とうふなど小さくてわかりづ
らいので、逆に沖縄の花やイラスト等でよい

P34-35 **第2部 見開き写真**・・・人物が特定されない写真へ

○文言の変更・・・ 自宅で療養を 続けたい → 続ける

1. 医療費の負担を 減らしたい → 減らす

⇒2019年版は希望と可能性で断言と“たい”に分けたが、表現を統一する

第1章 納得して治療を受ける

○P13 案内表示の削除 ⇒ 「Ti-da わらば一む」はほとんど活動している様子がないので
案内は削除

○P15 ターミナルケア（エンドオブライフケア）の説明文の変更

・・・満足して最期を迎えられるように支援すること

→「・・・最期までその人らしく生きることができるよう支援すること。」へ変更

○P17 (3) 免疫療法・・・民間療法と混同してしまう

⇒「免疫チェックポイント阻害薬」と項目名を変更するか
スペースがなければ削除対象とする

- P17 (4) がんゲノム医療は今後のために図説を入れるなど追記したい。
ゲノム検査結果をもとに治療を進めることが大部分のがん治療に大きく進歩をもたらす見込みである。その情報について正しく情報提供したい。
⇒ そのページ追加のために (5) 臨床試験は削除 (3) 免疫療法も削除も検討
⇒ P17-18 はがんセンターにて今後検討予定
- P19 (7) 妊娠の可能性を残すに追記
豊見城中央病院でも卵巣凍結保存を行っている。 ⇒ 銘刈先生と今後調整
- P24-25 色使いを見やすく変更してほしい。色弱の人は見づらい。バックの色と文字が同じなのはどうか？
→ 全体の配色を統一しているが？
⇒ P48、P54、P81 に同様のサイトや本の案内があるが、パソコンや本のアイコンのみバックカラーで文字は黒なので見やすい。他にもそのように統一出来ると見やすい。
(他 P17、P26、P56、P59、P60、P62、P77) ⇒ 編集者と相談検討
- 県内で出来ない粒子線治療（重粒子線・陽子線）についても記載してほしい。
→ 追記検討
⇒ 該当者は沖縄県のがん患者を 8000 人程度と想定すると 10 人程度である。それよりは、今後 3~4 割は該当していくであろうがんゲノム医療についての説明のほうにページを当てる方向がよいのではと提案があり、その方向にした。
- 患者はすぐに治療をはじめないといけないと思っていることが多いので、告知の際に医療者より、治療を始めるまでの猶予期間はどのくらいあるか、治療法の選択肢をはじめできちんと教えてほしい。家族と話し合ったり、セカンドオピニオンをとる時間がどの程度あるのか、年齢によっては苦しい治療よりも生活の質を優先したい人もいるが、あまり説明されていないことを感じることもある。
⇒ 項目として掲載するよりは、相談員の方の体験談やアドバイス例を記載お願いできないか？
⇒ 要課題

第2章 よりよい療養生活をおくるために

- P36 (1) 緩和ケアがホスピスと別れてはじめに記載 ⇒ 変更なし
- P37 アドバンス・ケア・プランニング (ACP) について
⇒ 県医師会発行の冊子案内を入れるのを検討 ⇒ 調査する

○P39～患者会

あまり活動していないところや連絡のとりづらい患者会は記載しないほうがよい。
勇気を持って電話しても何度もつながらないことが発生して逆効果である。
実際活動的に支援を行っているところの情報を載せたほうがよい。

→ 削除したほうがよいか？

⇒ 連絡確認してとりづらい会は削除。どうしても記載希望の場合は連絡とれるように計らってもらるか、会があるという名称のみ記載がよい。

○やいまゆんたく会より、P45、P46 の修正事項連絡あり

⇒ 修正して記載

○ぴんく・ばんさあより、連絡時間・方法の明記希望あり P46 は P43 へ統合内容確認済

→連絡つかないとの問い合わせがある会であり、訪問し活動内容を確認。連絡時間とメールでの返信を確認して掲載予定へ

○P48 外見ケア

治療による副作用は男女共通の悩みなのでイラストを男女に検討してはどうか？

→ 昨年度それで、眉を描く男性のイラストを追加している

⇒ イラスト構成上難しいのと、それぞれで男女がいるので変更なし

外見ケア BOOK の説明について、「髪」を挿入する方がよいのでは？

→ 本の案内文章がメイクによるケアが主なのでそれを引用している

⇒ 外部団体の説明文なので変更は差し控えたい。また、髪については同ページで説明とイラストがあるので変更なし

○P52 文言の変更

「復帰支援」→「復学支援」

⇒ 学校への復帰なので復学へ修正

○P53 案内の表記の仕方

『こども向けの制度を知る』→P90 は院内学級の最後にあるが、経済的な支援の説明と気づきにくい、出来れば P55 あたりに内容が分かりやすく案内があるとよい。ここ (P90) への誘導は大事である。

○P54 兄弟支援

入院している子どもだけでなく、その兄弟についても相談できることを知ってほしい。また、兄弟の気持ちも大事であると強調してほしい。

⇒ 記載内容検討。体験談は難しい？文言図挿入などでも。アイデア募集中

○P55 AYA 世代の情報追加

○部会であがっていた、フォローアップノートが完成していたら案内できるとよい。
→ まだ、検討であった。

○AYA 世代向けのサイト等の紹介

マギーズセンター（東京）・・・予約なしで行けて、相談したり、図書コーナーがあったり、お茶をして気分を間際らわせたりできる場所が沖縄にもあるとよい。
県外だがそのような場所や案内サイト（スタンドアップ）を紹介してはどうか。

⇒ 今後詳細を調べてスペースと相手の確認に応じて記載

○P55 こども向け介護用品の案内の追記

P59 の介護用品のレンタル案内も P55 にあるとよい。

個人業者で子供向けのレンタル業者が県内にあるが掲載出来ないか。子どもの場合使用期間が限られるので、レンタルは非常に助かるが情報が少ないので。

⇒ 業者の紹介があり、個人事業者なので問い合わせで掲載依頼してみる

○P56～在宅療養生活のサービス内容の追加

- ・訪問歯科診療
- ・訪問リハビリテーション
- ・退院後の在宅療養では食事のこと（栄養のバランス等）で悩む事が多くなります。栄養士のサポート窓口はないでしょうか。あればイラストの追加検討しては？

→ 意見があったことより、上記施設について調査したところ、対地域が限られ状況もばらばらであったがどのような掲載方法はよいか検討

⇒ 地域差もあることから、今回は他にも「訪問歯科診療」「訪問リハビリテーション」「栄養士のサポート」が地域によってはあることを追記

○P60 ファミリーサポートセンター事業は、対象が広く市町村等へ相談すると分かることなので強いて記載しなくてもよいのでは？

⇒ 記載の可否でがんに特化してなく全般に知られているので記載削除

○P62 緩和ケア病棟（ホスピス）のある医療機関

- ・緩和ケア病棟の記載をホスピス病棟と変更してほしい。緩和ケア＝ホスピスのイメージがあり、そのため初期の緩和ケアの誤解がある。
⇒ 緩和ケアは第2部（1）で説明しているので、ここでは終末期との表現もありホスピスに病棟をつける文言はあまり聞かないのでそのままよいのでは。
- ・緩和ケア病棟の一覧表に2018年版の様に外来通院の可否を追記してほしい。
- ・緩和ケア病棟と外来を一緒に記載すると終末期のイメージになるので冊子には

記載しないでほしい。スタッフが把握しているか別紙があればよい。

→ 異なる記載について委員で意見調整

○P63 緩和ケア外来・入院の手順の図は、ページの強いて載せる必要があるのか？
それよりホスピス行ってもらえることへのイメージに繋がることを載せたほうがよい。

→ 意見調整課題

⇒ 患者さんがほしい情報というより、スタッフが使用しやすいものなので、スペースがあればそのまま外来はなしで記載し、出来れば手順ではなく、ホスピスでの体験談的なものがある方がよい。 検討後調整。

第3章 お金のことについて

○P68 高額療養制度は毎年8月頃に見直しが見直しが実施されるので、注釈を付けておいたほうがよいのでは？

⇒ 昨年までは段階的に見直し期間で変更があったが今後はしばらくはないだろうと社会保険労務士の方より説明があった。他に、注釈で何年何月時点を表に付ける方が変更の時も説明しやすいのあったほうがよいと意見があった。

○P70 高額療養費制度の表において以下のように修正したほうが理解しやすいのでは？

「外来」→「外来（個人）」

「外来+入院」→「入院（世帯合算）」

→ どちらがわかりやすいか？法的な表現ではどうか？

⇒ 「外来」→「外来（個人単位）」

「外来+入院」→「外来・入院（世帯単位）」

がわかりやすいと社会保険労務士の方より提案。編集者とスペースを相談へ

○P77 がんになった親を持つ子どもへのサポートをするための相談専用電話の記載も必要ではないか。（インターネットを使用できる環境にない子どもたちもいるため）

⇒ 探索してみつからないが、知っているか意見を求めたが、ホームページ以外にそのような情報発信窓口は確認できず、メールのみで電話での相談に対応している組織についての情報は確認できなかった。要望に応えるものがないので、通常のがん相談窓口での対応となる。

○P78 沖縄労働局総合労働相談コーナーの説明文の修正

「県内の労働局、労働基準監督署内で、無料で労働問題の専門家が相談に…」

→ 「…労働基準監督署内で、労働問題の専門家が 無料で相談に」

⇒ 文言提案通り修正へ

○P78～AYA 世代の就労支援をしている団体も記載してほしい。

⇒ 窓口の紹介あり、確認して掲載検討へ

○P78～転職をして働き続ける選択肢もあることを載せてほしい。

⇒ 文言を足すか。相談しての転職に至るまでの例などを体験談のように載せるのもよい？ 検討課題。

○P87 (2) 離島・へき地のがん患者等の宿泊支援については、内容や文言に不適切な表現があったり、現状に即わない点等があるので見直しを行う必要があると思料します。おおむね2割と表記 → 実際は市町村によるがもっとあるので

→ こちらは沖縄県の制度についての記載で、実状では市町村によってプラスがある。

→ 患者にはどちらでも総合なので、逆に2割しかもらえないと誤解を受けるので削除してほしい。お住まいの市町村窓口にお問い合わせ下さいと記載したほうが無難である。

⇒ カットすべきか表記変更か審議 ⇒ 県とも調整してOKなら変更へ

体験談

○治療を受けながら仕事を続けた体験談があればいい。

⇒ 金城先生の就業相談をアドバイスや体験談的にまとめられないか？

転職の例とも箇条書き的にでもどうか？

⇒ 病院のハローワーク相談会に行って実際にその人に話を伺って書くのもあるのでは？

時間的に合えばどれも検討。

○AYA 世代の人やその親（できればその兄弟も）の体験談があるとよい。 ⇒ 調整中

その他

○ページがどうしても削減できないなら、見開きの写真をカットしては？

○「がんサポートハンドブック」にブックカバーを取り付けていただきたい。

患者さんの中にはがんであるということを他人に知られたくないという人も多く、がんサポートハンドブックを手にしても、他人からがんに関する冊子を読んでいると知られない方がよいという声が多く寄せられます。よって、ハンドブックの2枚目に「がんと告げられたあなたへ」という3つ折りの紙面のようなものを冊子の裏表紙の前のページに取り付け、必要に応じてブックカバーとして活用する工夫が出来れば嬉しいと思います。

(案) 裏表紙の方から右回りで表表紙にまわし、表表紙の裏で納める方法では？

また、ハンドブックのブックカバーにはイラストやさわやかな風景画等を入れ、心が安

らぐ冊子にできれば良いのではないのでしょうか。1人でも多くの人に「がんサポートハンドブック」を利活用できるように工夫することも大切な制作要素ではないでしょうか。

⇒ 癒される発想ではあるが、県内の印刷業者でそのような印刷対応はできないとことで現状難しく、また出来たとしてもかなり制作費を要するので事業で作成するには無理があると結論。

問い合わせ先一覧 問い合わせ先一覧

- 情報の更新 …… 医療機関一覧の電話番号は代表番号のところと相談室などがあり違いの表記は必要か？代表電話と誤解している人もいるが…
→ 今後の課題（未検討事項）

ノート欄 私のメモ

6. その他の意見

- ◎告知をされた時には手に入るようにと思うが実際そうでないところがある。
もっと広報活動が必要ではないか。
→ 事業での大きな宣伝活動は出来ないが、さらなる周知方法の検討は必要
- ◎枚数：これ以上は多いので、2019年版同様にする。（とじ込み・表紙裏表で110ページ）
- ◎フォント：大きくするとページが増えてしまう。2019同様の大きさで。
- ◎情報の更新：2019年11月時点を基本として、いつの時点の情報か記載する。
- ◎ページ案内：2019年版で読みやすくなったのでそのまま。

7. 今後のスケジュール確認

- 議事要旨及び役割分担案をメールもしくは郵送などで送付し、検討・修正など行う。
- 各コンテンツへの意見・要望は随時受け付けて検討する。
- 制作スケジュール案と担当箇所の確認。
- 自分の担当分野でない部分への意見も大事なので、気が付いたら知らせること。